5章　総合問題5

問題

【1】

ポイント

約 1,120 語の長文で，近年は国立大学入試でもこの程度の長さの英文が出題されるようになってきた。下線部和訳や和文英訳は，標準的なものであるが，文脈を正確に把握した上で，訳語を決定する必要がある。100 ～ 120 字の内容説明問題については，要点を逃さずに過不足なくまとめる訓練を普段から心がけておこう。

解答

（1）「**全訳**」の下線部ⓐ，ⓓ，ⓕを参照。

（2）**a**　it　　**b**　easy　　**c**　memorize

（3）**c**

（4）**a**　non-literate　**b**　observe　　**c**　small
　　d　literacy　　**e**　society

（5）文字を持たない社会から学ぶ機会を失いつつあること。(25 字)

（6）Once people come to understand the diversity of plants and animals in forests, they will be aware what they will lose when they destroy them.

（7）利点は，書物中心の偏った見方を乗り越え，完全な口承文化の創造性と美を理解し，世界とその中で人間が占める位置について新たな見方を得られることで，問題点は，その記録には多くの金と時間と労力がかかることである。(102 字)

解説

（1）ⓐ〈Without writing〉, all linguistically encoded knowledge is
　　S　　V
always only one generation away from extinction.
　　C

○ Without ～ は「～がなければ」という‘条件’を表している。

○ writing は，口承文化 (oral, non-literate culture) にはない「文字に書き表すこと」を意味している。

○ linguistically encoded「言語によって記号化された」linguistically はここでは「言語学的に」というより「言語で；言語的に」という意味。辞書を引いてそのまま訳語を書き写して適切な訳ができるとは限らないので注意すること。

○ only one generation away from extinction：直訳すると「消滅からわずか 1 世代離れたところにある」。つまり，「ほんの 1 世代経過すれば消滅してしまう」ということ。

下線部を要約すれば，人間の知識は話したり書いたりして言語という形にすることで後世に残っていくが，文字がなければ記録に残らないため，その人が死んでしま

えばその知識も消滅してしまうということである。

ⓓ it is hard for us even to imagine

{how our day-to-day life would change 〈in the complete absence of writing〉}

○全体は it is ～ for A to …（Aにとって…することは～だ）の構文。

○ imagine の目的語の how 節中は，in the complete absence of writing が‘条件’を表す副詞句で，would change は仮定法になっている。助動詞の過去形を見たらまずは仮定法を疑ってみること。if を用いた条件節が見当たらない場合は，主語や副詞〔句〕が代用になっていることが多い。

○ in the complete absence of ～ は if it were not for ～ のように，「～がまったくなければ」のように訳すと自然。

ⓕ Regrettably, literacy in large national languages is

S　　V

often the beginning 〈of an educational process〉

C

{that leads to abandonment of small languages}.

large national languages と small languages がどのようなものかを把握することが難しいかもしれないが，下線部の前に dominant national or regional language とあり，その例として Hindi と English が挙げられていることから，large が dominant に対応することがわかる。したがって，large languages は「大勢によって話される主要言語」，small languages は「少人数によってのみ話される小規模な言語」を意味する。

lead to ～「～につながる；～を引き起こす」

１つの国の中で勢力の大きい言語を国語として，その読み書きの教育を進めることで，同じ国の中の少数民族の言語は使われなくなり，消滅に向かってしまうということである。日本で暮らしているとイメージしにくいかもしれないが，アイヌ語はその例である。

（２）下線部は，「情報は，記憶を容易にするために，構造化される必要もある。」という意味。下線部と設問の文を見比べれば，for ～（～のために）という‘目的’を表す副詞句を so that … という形の節に書き換えればよいことがわかる。よって，ここは「その情報が容易に記憶できる」という意味の節にすればよいので，it（= information）is easy to memorize とする。S be easy〔hard；difficult〕to … という形で，文の主語が to 不定詞の目的語を兼ね，「Sは…しやすい〔しにくい〕」という意味を表す構文である。

（３）have a good command of English で「英語を自在に操る」という意味になるが，この command は「自在に操る力」の意味であり，与えられた選択肢の中では **c** の control が最も近い意味を表す。

（４）**a**　while という‘譲歩’を表す接続詞を用いていることと，本文では文字の重要性と比較して文字を持たない文化の価値について述べていることから，literacy と対比的な形容詞である non-literate が入る。

b　動詞が入るので observe か lose であるが，ここは「我々がまだ…できるうちに」という意味なので，observe が入る。

c，**d**　**c** には形容詞の small か large，**d** には名詞の society か literacy が入るが，**d** は「社会を獲得した言語」ではおかしいので，literacy が入るだろう。文字をつい最近獲得した言語ということだから，**c** は small が適当。

e　「文字が～に与えた影響を調査することが有効になり得る」という意味で，残る名詞の society を入れれば本文の趣旨に合う。

設問の文の全訳は以下の通り。

「読み書きの能力を持つことはよいことであるが，自然の，文字を持たない人間社会の状態を，まだ観察できるうちに調査してみることも価値がある。したがって，つい最近文字を獲得したばかりの小規模な言語の事例を記述し，その文字がその社会に与えた影響を調査することが，状況を理解するために有効になり得る。」

（5）　下線部は「機会は失われつつある」ということを述べているので，それがどのような機会のことを言っているかを説明する。下線部の前では，文字を持つことが人間社会に対して持つ影響を研究することの重要性を述べており，それは現代においてまだ文字を持っていない社会や，最近文字を持ち始めたばかりの社会を研究することで学べると言っている。下線部の後ろに目を向けると，読み書きをすることが世界中に広まるにつれ，機会が失われつつあると言っているのだから，その機会とは，下線部の直前にあるように，「文字を持たない社会から学ぶ機会」である。

（6）　○「ひとたび～すれば…」第６段落第１文の Once … が利用できる。同じ文の後半の come to …（…するようになる）を「理解するようになる」の部分に用いてもよいだろう。

○「森林」ℓ. 81 にある forest が使える。なお，本文のこの箇所は not see the forest for the trees（木を見て森を見ず）という表現を利用している。「細かい部分にとらわれて全体が見えていない」ということである。

○「動植物」何も参照せずに思いつくべき語ではあるが，ℓ. 68 に animals と plants がある。合わせて plants and animals とすればよい。

○「多様性」diversity

○「～を失う」を意味する lose は本文中に何度も出てくるが，参考にするまでもないだろう。

○「何を…かに気づく」ℓ. 9 にあるように，‘aware ＋疑問詞節’の形で表せる。

（7）　利点と問題点を説明することが求められているが，書き出しは「利点は」とするように指示があるので，全体は「利点は～であり，問題点は…である。」という形でまとめればよいだろう。設問文の「消滅しつつある小規模な言語とその文化を記録にとどめること」は，最終段落第１文の document small languages and their story traditions という語句の意味とほぼ一致しているので，ここに注目する。この文の「相当なお金と多大な時間と労力がかかる」というのがまさに問題点である。利点は最終段落の第６文に述べられているので，ここをまとめればよい。

全訳

完全に口頭伝承で文字を持たない文化がどのような意味を持つかをしばし考えてみることで，我々は何らかの利益を得ることになるかもしれない。そこには，買い物用のリストもなく，手紙やＥメールもなく，メモもなく，携帯電話のテキストメッセージもなく，本もなく，成績通知表もなく，人工のクリスマスツリーの組み立て方の解説書もなく，取扱説明書もなく，辞書もなく，新聞もなく，図書館もない。これが人間の言語の大部分にとって「通常の」状態なのである。

しかし，文字を持たない口承文化は，伝統的な知識の膨大な体系を伝え，記憶し，よりどころとすることができる。口承文化は，この知識をしっかりととどめておくことを可能にする文字のような，いかなる有形の手段の恩恵も被ることなしに，それをしているのである。こういった集団的，個人的な記憶力の驚くべき芸当は，言語が情報を格納し伝達するいかに強力な手段であるかを我々に知らしめてくれる。

ⓐ文字に書き写さなければ，言語によって記号化されたすべての知識は，わずか１世代も経れば消滅してしまうのが常である。もしそれが口頭で伝えられなければ，失われてしまうのである。このことは，実際に継承される内容は，人間の生活にとって何かしら本質的で重要なものであり，取るに足らないものや無関係なものではないということを意味する。また，そこには認められた知恵だけがあり，情報を伝える人は各々自身の経験を通じてその情報を修正したり，装飾したり，余分な部分をそぎ落としたりしなくてはならないことも意味する。すべては即興の喜劇のようなもので，個人の記憶力や創造性に左右され，不変なものは何もないのである。

「原始口承」文化においては，人々は非常に多くの話し方を活用する。それらは，語り，談話，噂話，会話，間の取り方，抑揚，沈黙，声の大きさ，語の選択，物語，神話であった。彼らは，言語の中に要約できるすべてのものを伝達し，受け取るために，社会的学習のみに頼っている。情報は，記憶を容易にするために，構造化される必要もある。頭韻，脚韻，並列法などの，長い文章の記憶を助ける多くの修辞的技巧がある。英語や，その他の文学的伝統を持つ大規模な言語においては，そのような修辞的技巧は，日常的な理解の必需品というよりもむしろ芸術形式である。文字を持たない言語においては，そのような記憶を助けるものに依存することにより，人々は大量の日常的あるいは難解な知識を蓄積し思い出すことができるのである。

そのような知識は，その効率性のために，社会に広まっていく傾向にある。そういった社会において，限られた特権的な知識を自在に操ることができたのは，図書館司書でもインターネットの管理者でもなく，シャーマンや語り部であった。そして知識はそれを必要とする人々やそれを記憶にとどめる責任を有する人々の間に分配されるような方法で受け継がれていった。例えば，フィリピンのバタンガンという言語を話す人々（8,000 人の話者がいる）の間では，男児のみが民間医療を教わる一方で，宗教的な歌や儀礼は，成人男子のみが教わる。

いったん社会が文字文化へと移行すると，文字が社会にとって必要不可欠なものと思われるようになるのかもしれない。しかし，人々はこの褒美を得るために何かを犠牲にしてしまうのだろうか。完全な口承文化が文字に道を譲る時，何か本質的なものが失われてしまうの

だろうか。こういった疑問は，文学や言語学の領域にとどまるものではなく，思想や文化，心理学の根本的な問題を提起する。科学者は，現代の口承文化がどのように（社会的，認知的，芸術的，心理学的に）機能し，我々が文字に大きく依存しているために（文字文化として）失いつつあるかもしれないものが一体何かということを，探り始めたばかりである。

長期間にわたり書くことと関わってきたため，ⓓ我々には書くことが一切なくなってしまったら毎日の生活がどのように変化するであろうかということを想像することすら難しい。純然たる口承文化社会になれば我々の言語使用も大きく異なったものになるであろう。情報の流れ，世間話，会話，食料雑貨の買物，さらに文法構造の領域において，何が異なるであろうか。我々の記憶容量はやるべき仕事に耐え得るのだろうか。どのように我々は適応できるのだろうか。

我々は，文字を持つ社会から持たない社会へと移行した社会のよい例となる歴史的記録を持っていない。しかし我々は，いまだ書き言葉を獲得していない社会や，つい最近になってようやく獲得した社会に関する，現代における多くの例を持っている。我々はそのような社会から多くを学ぶことができるかもしれないが，読み書きの能力が全世界的な標準となるにつれ，そういった機会は次第にせばまりつつある。

世界中の政府や非政府組織は読み書き能力を優先課題としている。ユネスコの報告によると，2002 年から 2004 年の間の世界の成人識字率は 81.8 パーセントに達した。この数値は世界銀行が試算した，1970 年の 55 パーセント，1990 年でも 71 パーセントという数値よりはるかに高いものである。この増加は，インドで 1951 年にはわずか 18.33 パーセントであった識字率を 2001 年には 64.84 パーセントにまで押し上げたような，国を挙げての運動によるところが大きい。このような運動は，称賛に値する一方で，「識字とは自由だ」（読み書きができないことは一種の奴隷状態や牢獄である，ということを暗示する）といったスローガンを掲げることにより，読み書きができないことに完全に否定的な見方を投げかけることになった。このような統計的数字の背後には，「読み書き能力」ということが，通常，国あるいは地方の支配的な言語（例えばヒンディー語や英語）で読み書きができることのみを意味するという現実がある。多くの小規模な言語は読み書きのできる話者を持つことなく消えていく。小規模な言語は国家的な識字率向上運動の対象に含まれることがめったにないのである。ⓕ残念ながら，大規模な国語による読み書き能力が，小規模な言語の放棄へとつながる教育的過程の始まりとなることが多いのである。

言語が使用されなくなり忘れ去られるようになると，物語，歌，叙事詩といった口承伝統のジャンル全体が急速に消滅へと向かう。ほんの一部だけが本に記録され収められてきたのみである。さらに，本に収められた物語は，もはや声に出して語られることがなければ，かつて活気を帯びていた伝統の，単なる抜けがらとして存在するのみであろう。我々は多くのもの，すなわち世界観全体，宗教的信仰，創世神話，生命の観察記録，野生動物の飼い馴らし方や植物の栽培技術，移住と定住の歴史，集合的叡智などを失うことになろう。さらに我々は，人間がどのようにして記憶力を研ぎ澄まして叙事詩的物語を保存し伝達するかということに対する洞察力を失うことになるであろう。

我々のいわゆる「情報化時代」においては，知識は深いがせまくなる傾向にある。アメリカの大学においては，履修課程全体が一作家の作品，あるいは一作品のみを研究するような

コースにすら入ることができる。人間社会全体の集合知が，門外漢が関心を寄せることもなく，その文化に暮らす人々自身が利用するわけでもなく，また子供たちが興味を持つこともなく衰退していくのは皮肉なことである。

小規模な言語やその物語の伝統を記録しに行くことは相当なお金と多くの時間と努力を要する。しかし，それは実行可能であり，急いで行うに値するものである。アメリカの大学において，カヤポ族の昆虫学やトゥバの叙事詩的物語，あるいはパプアの数学に関する講座ができることを想像してみてほしい。こういった伝統が記録されることなく廃れてゆく時，我々が失うことになるものが何なのかを知ることすらない。科学者や人文学者として，我々は愚かにも木を見て森を見ずの状態にあるのである。我々が書物中心の偏よった見方を乗り越えて，完全な口承文化の創造性や美しさの価値を認めることができれば，世界とその中における我々人間の占める地位のまったく新たな見方への入り口を開けることができる。しかしその扉は間もなく大きな音を立てて閉じ，人間の創造性の広大な領域は永遠に閉ざされようとしているのである。

注

ℓ. 7 ◇ physical medium：ここでは oral に対して writing の属性として用いられているので「形のある媒体〔手段〕」という意味でとらえるとよい。

ℓ. 10 ◇ package ～ *vt.*「～（＝情報など）を格納する」ℓ. 21 の encapsulate も同じような意味で使われている。

ℓ. 16 ◇ improvise ～ *vt.*「～を即興で作る〔演じる〕」

◇ set ～ in stone「～を不変にする」improvise の反対の意味で使われている。

ℓ. 22 ◇ alliteration *n.*「頭韻」同じ音で始まる語を繰り返す技法。

◇ rhyme *n.*「脚韻」同じ音韻で終わる語を繰り返す技法。

ℓ. 44 ◇ be up to ～「～に耐えられる」

ℓ. 66 ◇ vibrant tradition：ℓ. 63 の oral tradition の意味を含んでいる。

◇ stand to …「…しそうである」

◇ volume *n.*：前文の no longer spoken から，「音量」と「分量」の両方を兼ねて使われていると読み取れる。

ℓ. 74 ◇ languish *vi.*「衰退する；衰える」

【2】

解答

ⓐ「**全訳**」の下線部ⓐを参照。

ⓑ妥協はあらゆる層において生ずるのである。つまり一政党内においても，各政党間においても，政府の各部局間においてもである

ⓒ「**全訳**」の下線部ⓒを参照。

全訳

ⓐ多数党がその行動にきちんと責任をとるのを確実にさせるためには，少数党は，多数党の行動を批判し他の代案を提示し，有権者が，選んで職につけた役人や政権をとらせた政党の功績について，その後も引き続いて判断を下すのを可能にする責務を負うている。少数党から出される批判は建設的なものでなければならない。というのも，少数党は単に相手を妨害するだけでは事足りないのであって，多数党と少数党の間の関係から効果的な動きが生まれるように，少数党のとる行動は前向きのものでなければならないからだ。多数党と少数党が相互に働きかけた上で普通生まれる成果は妥協であるが，妥協こそ政治という営みの本質なのである。ⓑこれはあらゆる層において生ずるのである。つまり一政党内においても，各政党間においても，政府の各部局間においてもである。ⓒこのプロセスは政治部門の正確さの欠如から生まれた当然の解決法であり，こうした妥協のための土台を作るのが政党の機構なのである。合衆国の歴史は本質的には二大政党の穏健な分子の間の妥協の歴史である。この国の歴史の中で，対立する政治的見解を和らげて歩み寄らせることができなかった唯一の時は，1850 年代の時期であり，このお互いに譲らない争いの結果起こったものが 1861 年の南北戦争であった。そして我々はその恐ろしい教訓から学ぶことを，今日まで一度もやめたことはないのである。

【3】

ポイント

この問題では，２つの事柄を対比させる文の形に注意したい。個々の文だけに目を奪われるのではなく，英文全体の構成を考慮して文を組み立てていくと，よりバランスのとれた英文になる。

解答

There is an English expression that goes “Don’t beat around the bush,” which means “speak to the point, not in an indirect way.” When Japanese don’t give their opinion frankly, Americans get irritated. On the other hand, when Americans jump to the point, Japanese think that they have no manners. This difference is cultural. More people who can really understand both cultures and can interpret feelings as well as words are needed.

別解

Americans get impatient with Japanese who speak indirectly. Japanese, on the other hand, find Americans who go straight to the point rude. This is a cultural difference. We need more people who can understand each other’s culture in the true sense — not only the languages but also feelings.

解説

下線部の最初の文は，「率直に物を言うこと」に対するアメリカ人と日本人の考え方の違いを対照的に述べたものである。したがって，同じ構成の文を２つ続ける形にして両者の対比をはっきりさせる。１つの方法として，「日本人が…はっきりと述べないと」と「アメリカ人が…ふれると」をそれぞれ when で始まる副詞節で表すことができる。また，「アメリカ人

は思っていることをはっきり述べない日本人にいらいらする」「日本人は即座に要点にふれるアメリカ人を礼儀に欠けると考える」と読み換えて，関係詞を用いて表すことも考えられる。長い文になることが予想されるので，２文に分けるとすっきりする。後半に on the other hand（また一方；これに反して）といった語句を付け加えると，前文との関連・対比がよりはっきりする。２文に分けず１文で書く場合は，前半と後半の対照を表す接続詞 while を用いて結ぶ構成にするとよい。

次の「この違いは文化的なものなので」は，内容から考えて以下の部分とは切り離して独立した文として表すのがよい。「両者の文化を本当に理解し…」の文はいろいろな構成が考えられるが，最も日本文に近いのは「…できる，より多くの人」を主語とし，「必要とされている」を受動態で表す構文である。また，主語を we にして「我々は…できる，より多くの人を必要としている」とすることもできる。

○「思っていることをはっきり述べる」say clearly what one means；give one's opinion〔thought〕frankly など。「思っていることをはっきり述べない」を speak indirectly と簡単に表すこともできる。

○「いらいらする」get〔become〕irritated や get〔become〕impatient が適切。「～に対して（いらいらする）」の部分に‘人’がくる場合はいずれも前置詞は with になる。

○「即座に要点にふれる」get〔go〕straight to the point などの表現があるが，ここは日本人側からの見方なので，否定的なニュアンスを含んだ jump to the point（いきなり要点に飛ぶ）のようにするとよりふさわしい。

○「礼儀に欠けると考える」「礼儀に欠ける」は rude，impolite，または have no manners；lack politeness とすればよい。「～と考える」の構文としては Japanese think〔consider〕that Americans have no manners や，Japanese think〔consider〕Americans to be rude など。

○「この違いは文化的なものである」主語を「この違い」として This difference is cultural. とするか，前文の内容を This で受けて This is a cultural difference. とすればよい。具体的な相違点なので difference は可算扱いになる。

○「…できる，より多くの人が必要とされている」more people who … are needed〔required〕が日本文に一番近い訳。他に we need〔require〕more people who …とする方法もある。「ますます多くの人が…する必要がある」と考えて，more people should … と簡潔に書く方法もある。

○「両者の文化」文脈から「日本とアメリカ両方の文化」ということ。both cultures，あるいは each other's culture とすればよい。

○「理解する」understand や appreciate が適切。

○「本当に」really，truly などの副詞を動詞の前に置く。他には in the true sense（本当の意味で）のような表現も考えられる。

○「言葉だけではなく感情も」A＝言葉，B＝感情として，not only A but also B，both A and B，B as well as A などの形を使えばよい。「言葉」は「個々の語句，表現，言い回し」の意味に解釈すれば words となるし，「英語」および「日本語」と解釈すれば languages となる。「感情」は feelings がよい。

○「解釈する」interpret や understand でよい。「**別解**」のように understand を「(両者の文化を) 理解する」の部分と「解釈する」の両方の訳語にあてて「両者の文化，つまり言葉だけではなく感情も」を目的語にすることも可能。

【4】

解答例

In my opinion, this school's regulations should be revised. First, there is no evidence that students who make up, wear earrings, or dye their hair are not good students. They can study hard no matter what they look like if they have a will to. Moreover, banning the dyed hair look, yet admitting plain clothes, contradicts the school's regulations. It is natural that they should also have freedom to express themselves with the dyed hair look, if they can dress freely at school. (83 語)

解説

内容的には身近な話題である。読むべき課題文〔資料〕が示されているので，ただ自分の意見を書き連ねるのでなく，資料の内容を踏まえて書くことが求められている。次の手順で取り組んでいこう。

①まず資料をしっかり読み，内容を把握する。ポイントとなる部分にアンダーラインを引くなどして読んでいこう。この問題では，茶髪に対する高校生の意見がいくつか述べられており，そこはしっかり押さえておくべきである。

②自分としてはその問題にどういう意見を持っているのかを具体的に挙げる。ここで資料に書かれていることに同意する場合と同意しない場合の大きく２つの立場に分かれていく。

同意する場合：①で押さえたポイントをもとに独自の意見も述べる。

＜課題文から＞茶髪だからといって勉学が妨げられるということはない。
茶髪の高校生は不勉強の落第者だというのは固定観念にすぎない。

＜自分の意見として＞この高校では制服がないのに，茶髪は禁止とするのは矛盾である。
髪の色やスタイルは個人の自己表現の一部であり，規制するのはおかしい。

同意しない場合：すべてが自分のオリジナルの意見となる。例えば「学校や会社ではまだ一般に茶髪は認められていない」，「集団生活にはある程度の規律が必要だ」などが考えられよう。

③語数が不足している場合には具体例などで内容をふくらませる。

さて，以上の準備が整ったら，実際に英語にしていく。今回のように自分の意見を述べる議論型では次のような構成が多く見られる。

結論（主張，主題）→ 理由，詳細，具体例

このように，英語では「大事なこと」をまず言ってから「細かいこと」を付け加えていくという方法が好まれる。英字新聞の記事はほとんどがこの構成になっている。(もちろん「理由，詳細，具体例 → 結論」という流れの方が効果的な場合もある。)

そこで，まず書くべきは結論であろう。問題は「あなたの意見は何か」だから自分の意見を述べる際の英語表現を知っておく必要がある。次に結論を補強するための理由，詳細，具体

例を述べるわけだが，いくつかの内容を取り上げた場合はそれを接続する語（句）も必要である。以上から，この問題であれば次のような構成が考えられる。これはあくまでも解答例の１つにすぎないので，自分なりの理由や詳細，具体例で英文を組み立てていってほしい。

結論　In my opinion（この学校は茶髪を禁じるべきではない）.

＋

理由１　This is because（茶髪だからといって勉学が妨げられるということはない）.

＋

理由２　Moreover（制服がないのに茶髪を禁止とするのは矛盾である）.

【5】

解答・解説

（1）worry about　◆807

○ worry about；be worried about ～「～のことで心配する」

（2）Translate，into　◆808

○ translate ～ into …「～を…に翻訳する」

（3）prone to　◆812

○ be prone to …（≒ be liable to …)「…する傾向にある」

（4）for good〔ever〕　◆827

○ for good〔ever〕「永久に」

（5）in a　◆832

○ in a way〔sense〕「ある点〔意味〕で」

（6）in，detail　◆833

○ in detail「詳しく；詳細に」

（7）in need　◆835

○ in need「困った時に；まさかの時に」

（8）at random　◆837

○ at random「手当たり次第に；でたらめに」

（9）As usual　◆838

○ as usual「いつものように」

（10）adhere to　◆847

○ adhere to「～にくっつく；～に固執する」

（11）glanced at　◆853

○ glance at ～「～をちらっと見る」

（12）burned down　◆889

○ burn down「全焼する；燃え尽きる」

（13）cleared up　◆891

○ clear up「晴れ渡る」

（14）settled down　◆895

○ settle down「落ち着く；固まる；静まる」

(15) give, a ride〔lift〕 ◆913

○ give ～ a ride〔lift〕「～を（車に）乗せてやる」

(16) confident of ◆924

○ be confident of ～「～を確信している」

(17) noted for ◆930

○ be noted for ～「～で有名である」

(18) appropreate to〔for〕～ ◆933

○ be appropreate to〔for〕「～にふさわしい」

(19) at the, thought of ◆937

○ at the thought of ～「～を考えて」

(20) to your advantage ◆971

○ to *one*'s advantage「～（人）の利益になる」